

マズーンさんに 手紙を書こう

教育の大切さを訴え続ける
難民出身のユニセフ親善大使



© UNICEF/UN060498/Sokhin

シリアで暮らしていたマズーン・メレハンさんは2013年、紛争から逃れるため、家族とともに国境を越えました。当時14歳。父親から「一番大切なものだけを持っていくように」と言われたマズーンさんは、迷わず教科書だけをバッグに詰め込みました。ヨルダンの難民キャンプで過ごし、英国に定住するまでの3年の間、彼女は学ぶことを決してあきらめませんでした。難民キャンプ内にも学校があることを知り、「希望を持てるようになった」と言います。

しかし、早婚や単純労働を余儀なくされるなどして学校に行くことをあきらめてしまう子どもたち(とりわけ女の子)もたくさん見ました。マズーンさんはテントを1張ずつ訪ねては「子どもたちを学校に通わせてあげて」と大人たちを説得し続けたそうです。

2017年、マズーンさんは難民としては初めてユニセフ(国連児童基金)の親善大使に選ばれました。教育を受け、知識を得れば、生き続ける力となり、前向きな未来につながる。「すべての子どもたちに教育を受ける権利を」とマズーンさんは精力的に活動しています。

裏面の英文は、2017年7月、ドイツで開催されたG20サミットに合わせてマズーンさんが発信したメッセージです。「親愛なる難民の友人たちへ」となっていますが、紛争などにより学校に通えなくなった何百万人もの子どもを代表した訴えになっています。この文章を読んで、マズーンさんに自由に手紙を書いてください。日本で暮らす高校生のみなさんにとって、難民問題は遠い国の出来事と映るかもしれません。けれど、難民と呼ばれる人たちにも故郷や家があり、学校に通い、友人と夢を語り合う、ごく普通の生活があったのです。現代社会の重要な問題のひとつである「難民」に、想いを寄せてみてください。

協力 ● 公益財団法人 日本ユニセフ協会 <https://www.unicef.or.jp/>

募集要項

募集内容 ● マズーン・メレハンさんに宛てた手紙形式のエッセーを書いてください。英語の場合は400words程度、日本語の場合は1,200字(横書き)程度にまとめてください。

応募資格 ● 高校生(国籍・学年・性別・居住地は問いません)

応募方法 ● ①A4またはそれに準ずる大きさの用紙で手書きまたはパソコン使用。
②応募作品に、氏名(フリガナ)・性別・住所・電話番号・高校名(所在県名)・学年を記載した表紙(上記①と同じ大きさの用紙)を添付して、下記に郵送してください。(ホッチキス留めはしないでください)

郵送先 ● 〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-9-9 TSビル1F
(株)栄美通信 津田塾大学 高校生エッセー・コンテスト係

募集期間 ● 2019年8月1日(木)～9月5日(木) 必着

表彰 ● 最優秀賞1名(賞状及び副賞5万円を贈呈)
優秀賞若干名(賞状及び副賞1万円を贈呈)
最優秀作品は、10月13日(日)津田塾大学において表彰し、津田塾大学広報誌『Tsuda Today』と津田塾大学ウェブサイト、優秀作品は津田塾大学ウェブサイトに掲載・公表します。また、入賞者には10月11日(金)までに本人に通知します。なお、応募作品は返却しません。応募作品の著作権はすべて津田塾大学に帰属します。

お問い合わせ ● 津田塾大学ライティングセンター
高校生エッセー・コンテスト係
TEL: 042-342-5129
E-mail: essaycon@tsuda.ac.jp



津田塾大学は、国連と高等教育機関を結びつけるグローバルな取り組みである「国連アカデミックイニシアチブ」に参加しています。参加大学は、毎年、国連が定める「人権、識字能力、持続可能性、紛争解決」の分野における普遍的な10原則のうち、少なくとも1つの原則を積極的にサポートする活動を求められており、教育を通して地球規模の課題に取り組むことが期待されています。



津田塾大学ウェブサイトで、第1回～19回の高校生エッセー・コンテスト選考結果等を掲載しています。

<https://www.tsuda.ac.jp/>

Powerful letter by Syrian refugee and activist Muzoon

Some people call us the lost generation. We are not lost.
We have not lost our love of learning.
We have not lost our dreams for our future.
We have not lost our hope.

Dear Fellow Refugee,

I want you to know that life will get better.

It is not that long ago that me and my family were right where you are now. Exhausted, scared and not knowing what tomorrow will bring.

I was 14 years old and in my last month of grade 9 when the bombing started. I loved my home. It was such a happy place. We had to leave everything behind and find somewhere new to start over. I was so scared. I didn't want to leave.

I know how you are feeling right now. It may feel like everything is dark and hopeless, but there is light ahead. Look how much you have been through and you are still standing. You are much stronger than you think.

Me and my family spent 3 years in a refugee camp, much like yours, and it is there that I started learning again. But in the camps, I saw many people—many girls—give up on education. Many would never return to school.

I want to encourage you not to give up on your hopes and dreams for the future. Do everything that you can to stay in school because an education will help you build that future. With knowledge, we grow stronger.

You may feel that no one will ever hear your voice, I want you to know that I hear you, and I am fighting for you and your right to an education.

One day, I hope to hear your stories about how my fellow refugees became engineers, doctors, lawyers and teachers. And how many returned to their homes, their countries – to build a new life, one better than before.

Never stop learning and never stop dreaming.

Never lose hope.

Sincerely, Muzoon

マズーンさんの動画は、ここで見るができます ▶ <https://www.youtube.com/watch?v=qXGHe4oNvqI>

